
エイリアンズ

yoichi

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

エイリアンズ

【Zコード】

Z0004H

【作者名】

yoichi

【あらすじ】

今夜も主人のドライブに付き合わされてる。だけど、いつもと違うのは、助手席に女が座つてることだ。とても不釣合いな二人だけど、一体どうなるんだろう?不思議な夜を描いた、ファンタジーな恋愛物です。

最近日課になつてゐる夜のドライブ

この男に俺のハンドルを任せて走るのもだんだん飽きてきた
いつも一人で、陰気な音楽かけて、だらだらと街を流してゐる

俺はそういう車じやないんだがなあ

気が進まないドライブだけど、今夜はいつもと様子が違う

珍しく助手席に人が乗つてゐる

それも女だ

よく乗つてくれたもんだ

「タバコ、吸つていい?」

「うん、全然吸つていいよ」

おいおい、禁煙車じやなかつたのか?

いい女には寛容なんだな

しかし、無理めな女だ

香水とタバコの匂いが良くも悪くも似合つてゐる

お前みたいなガキができる女じゃないぜ？」

「珍しい車ね。こんな感じの車が好きなの？」

「まあ。古い車だけど、なんか雰囲気あるでしょ？」

「確かに古そう。カーナビ付いてないし」

「カーナビは付けてないなあ、……『めんね』

なんで謝るんだ？

カーナビなんて無粋な物、いつから願い下げだ

……まあ、俺の良さがこんな女にわかる訳ないか

今はオープンカー流行らないみたいだし

チヤホヤされたのは、はるか昔か

「知ってる？ 昔の映画で『卒業』つてのがあってさ、主人公がこれに乗ってたんだよ」

「……ふうん、そなんだ。あたし映画見ないからよくわからないけど」

「そつか。……ハハ」

ハハ、じゃないだろ

この手の女には、つらしく語ったところでたいした効果はない

だめだな、これは

……

ん?

こっち方面はホテル密集地帯だぞ?

なんだよ、やる時はやるなあ

これが本来の俺の役割だよ

「ここの時間だときっと空ってるかな」

「早く着きやう。」

「たぶん」

そつそつ、まといながら立てるよ

でも焦りは禁物だぜ

つて、あれ?

結局ホテル街を通り過ぎて高速に上がるのか……

確かにここの時間の高速は空ってるだろ? よ

「こつまー生、足として扱われるんだろうなあ

実際に走るのは俺だけ

いつそのこと、Hンストかましてストライキしてやるつか

「霧が濃くなつてきた。少しスピード落とさないと……」

「あ、ちょっと停めてー。」

「え？ 今、高速の上だよ？」

「早くー。」

なんなんだこの女は

それに本当に停まるか？

こんな視界悪い時に高速の路肩に停まって、どうなつても知りません

「ほら見てー あれ」

「ああ、今日は満月だったね。雲から出でてきたんだ」

「不思議な色。でもなんかきれいね」

用だったら停まらんでも見れただろうつづき

うわー 外に出せがつた

人間、アルコール入ると性能が落ちるって本当なんだな

「ひんやりして気持ちいいー！」

「やつぱり危ないよ。車の中に戻る！」

「……ねえ、なんかここ地球じゃないような感じしない？」

「え？」

「どこのか知らない星に一人だけで降りたみたい」

唐突だなあ

でもまあ、確かにそんな感じがしないでもない

深夜の高速道路は、ただただ無機質でひどく静かだ

周りはいつのまにか濃い霧につつまれて、俺のライトとハザードを反射させている

少し目線を上げると、オレンジ色の月がぼんやりと浮かんでくる

言われてみれば、まるで異世界に紛れ込んだようだ

面白いことと考え付くなあ、この女

「なるほど、この車は宇宙船つてわけだ」

「アハハ。丸いライトのかわいい宇宙船ね」

「結構かわいいでしょ？ 幌を降ろすともうとかつてよくなれるんだけど……」「……」

「ほんとだー。でもかつてこいつにいつか、なんかエッチっぽいね」

「ハハ。こいつにしてみればきっとほめ言葉だよ。」

エッチではなくてスタイルショットにしてほしい

でも悪い気はしないな

いつのまにか良い雰囲気になつてるのは俺のおかげか？

「寒くない？」

「ちよっとね。でももう少しだけしてたいな」

「俺のジャケットぐらいしかないけど、これで我慢してね」

「ありがとう」

いつもは全然えないのに、今夜は気が利いてるな

この一人、案外お似合いなのかもしれない

「霧が晴れるまでこじこじようが。きっと誰も通らないことと思ひ

「うん。ずっとそのままでもいいかなあ」

ボンネットに一人、肩を寄せ合つて座つてゐる

さつき知り合つたはずの一人なのに、恋人同士に見えてくるから不思議だ

お尻を温めなきゃいけないからエインストできなくなつたな
まつたく世話が焼けるよ

(……ガチャ)

小さな音がした

オートリバースの音だ

カセットテープは何周しただらう

陰気だと思つていたこの音楽も、こうして聴いてるとやけに沁みる
じゃないか

「ねえ、これってなんてなんていう曲?」

「そつといえは今の雰囲気にぴったりだ。この曲はね……」

霧はまだまだ晴れそうにないか……

不思議な夜を、この不釣合いな一人と過ごすのも悪くないな

(後書き)

ずいぶん前に書いたショートショートです。タイトルの「ハイリアンズ」は、好きなアーティストのキリンジの同タイトルを使わせていただきました。内容も、微妙になぞらえています。エイリアンズで検索すれば、youtubeでPVが見れますから、是非本家の楽曲と照らし合させてみてください。

最後まで読んでいただいて、ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0004h/>

エイリアンズ

2010年10月11日08時06分発行